



令和6年度 加賀市長からのメッセージ 第004号 10月30日配信

前回のこの場でもご紹介しましたが、先週末、世界約20か国からドローンのトップエンジニアが集う国際会議が開かれました。橋立地区や九谷ダムなど、市内の様々な箇所で試験飛行を行いました。その技術力は高く、物資を決められた位置に空からぴたりと地上に置くことができるなど、非常に素晴らしいもので世界的な技術に感心するばかりでした。

空の移送、あるいは移動手段を開拓することは、災害などの有事への対応に極めて有用な可能性を秘め、ひっ迫する国内の物流課題への打ち手としても有効であると考えます。そこで市は積極的に技術の集積や関係機関との連携を進めています。

その一環として、今週28日（月）に加賀市は日本航空株式会社と連携協定を締結しました。JALの航空運送事業および航空機整備の経験に基づく技術的知見と、双方で蓄積してきた先端テクノロジーを活用することで、様々な地域課題を解決し、持続可能な未来を作っていくことを目指すものです。また、空の産業に関連する人材育成や人材交流なども念頭に、両者で歩みを進めていきます。

「持続可能な未来」というところだと、子どもや教育の話を外すことはできないと思います。市内では北イタリア発祥の幼児教育プログラム「レッジョ・エミリア・アプローチ」からの学びを取り入れた保育の導入を、4つの公立保育園をリーディング園として推進しており、今朝はそのひとつであるスワトン保育園を視察してきました。

私や職員が近づいても集中して粘土で遊び、思い思いの絵を画用紙いっぱい描く園児の集中力は目を見張るものがあり、子どもが「やりたくなる」「考えたくなる」仕組みを日々考えておられる保育士の先生方の取り組みに胸が熱くなりました。短い限られた時間でしたが、わずか3～4歳の子どもたちと一緒に美味しい給食を食べ、「どんなしごとしてるの？」と、私の公務にも興味を持ってもらえて、その笑顔に背中を押されるひと時になりました。

(令和6年10月30日号)

加賀市長 宮元 陸